

1 生徒指導の推進 ～不登校、いじめ対策等の取組み～

【予算額 181,848 千円】

子どもたちの不登校や、いじめ等の問題に的確に対応し、子どもたちの心を支え、育んでいくため、専門家の派遣など相談、支援を充実します。

(新) 1 中学生保護者支援員配置事業 9, 800千円

不登校やいじめ等に不安や悩みを抱えた保護者の支援を行うことにより、学校と保護者が協力して生徒の自立支援を行う。

- ・ 臨床心理士が保護者のカウンセリングを行う。

拡充 2 スクールソーシャルワーク的學校不適応支援事業 67, 452千円

小中学校にスクールソーシャルワーカーを派遣し、福祉的な視点を取り入れて、課題のある児童生徒の環境改善を図る。

- ・ スクールソーシャルワーカーを市町に配置し、指導・助言や環境調整を行う。
- ・ 小・中学校開催のケース会議へ派遣（40校）

3 スクールカウンセラー等の配置 94, 096千円

スクールカウンセラー等を各学校に配置し、児童生徒や保護者へのカウンセリングや教職員への助言援助を行う。

- ・ スクールカウンセラーを各学校に配置
中学校100校、県立学校：重点校10校、その他37校
「子どもナイトだいやる」によるいじめ等の深夜相談電話の実施
- ・ 小学校心のオアシス相談員の配置
小学校30校

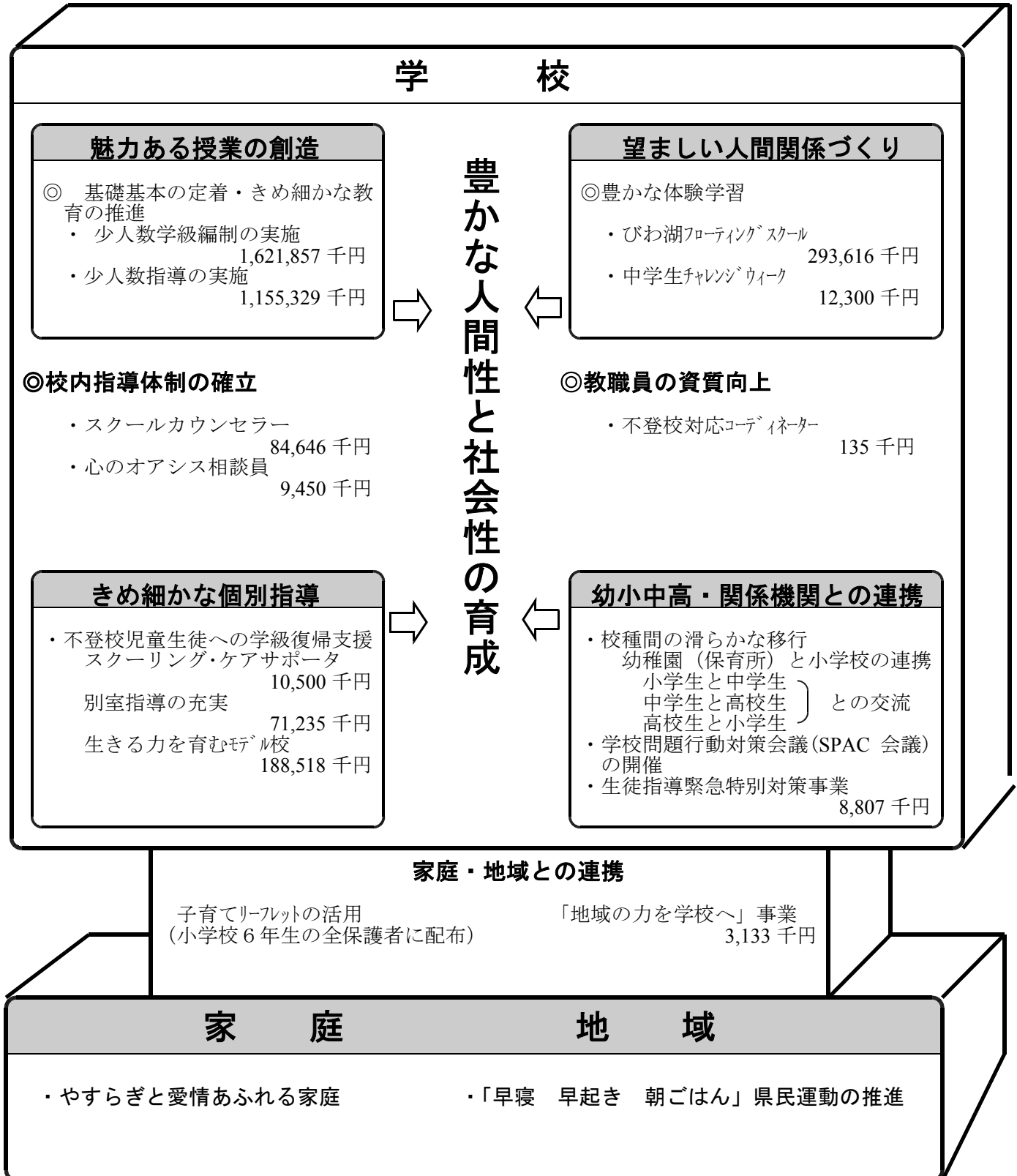
4 スクーリング・ケアサポーター事業 10, 500千円

子どもたちと年齢が近い大学生等を派遣し、不登校や別室登校の児童を支援。

- ・ 派遣回数 5, 000回

資一教委 1-1	
教職員課	内線4531
学校教育課	内線4570
生涯学習課	内線4652

生徒指導の推進



2 自然や社会に学ぶ体験活動の充実

【予算額 314,119 千円】

子どもたちが滋賀の豊かな自然や、地域社会の中で様々な体験をすることで、学び、豊かな心をはぐくみ、たくましく育っていくことができるよう、体験活動の充実を図ります。

拡充 1 琵琶湖に学ぶ学習船「うみのこ」の運航と基金設置 293,616千円

琵琶湖の環境学習船「うみのこ」が就航から四半世紀を迎え、乗船児童の累計が40万人に達するのを機に、「新うみのこ」の建造に向けた基金を設置する。

- ・ 児童学習航海（1泊2日）93航海を実施
- ・ 新学習船建造基金を設置（3,000万円を積立）

拡充 2 放課後子ども教室推進事業 16,779千円

小学校の余裕教室等を活用し、子どもたちの活動拠点を設け、地域の方々とともに勉強やスポーツ、文化活動などを進める。

- ・ 18市町55か所で実施（必要な経費を補助）

3 子どもが学ぶ「近江の歴史と文化」事業 3,724千円

郷土の歴史、文化や人物等を取り上げた副読本や資料集を各学校に配布し、地域の良さを学習。

- ・ 「郷土の文化（ひと編）」小3、小5
- ・ 「郷土の文化（もの編）」小4
- ・ 「12歳から学ぶ滋賀県の歴史」中学校

資一教委 3

教職員課
内線 4531
学校教育課
内線 4570

3 きめ細かな教育の推進

【予算額 1,634,609 千円】

児童生徒に丁寧に向き合い、ニーズに対しきめ細かく対応する教育を推進するため、発達障害のある子どもたちへの対応や、少人数学級編制などを実施します。

拡充 1 発達障害のある児童生徒への対応の充実

12,752千円

学習障害(LD)などの発達障害のある児童生徒への指導力の向上を図るとともに、教育相談などの支援を実施。

- ・ ①発達障害児童生徒への指導力向上事業
特別支援教育巡回チームを学校へ派遣
特別支援教育支援員を高等学校に配置(3人)
- ・ 特別支援教育相談
発達障害のある児童生徒の教育相談を実施

2 少人数学級編制の実施

1,621,857千円

小学校および中学校において、引き続き少人数学級編制を実施。

- ・ 小1～小3、中1で35人学級編制を実施
(小学校では複数指導との選択制)

小学校 教員142人 非常勤講師89人
中学校 教員 80人
- ・ 学校の実情に応じ、小4～小6で1学年を選択して35人学級編制を実施

小学校 臨時講師 10人

4 生涯スポーツの振興

【予算額 410,650 千円】

県民誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツを楽しめる社会の実現を目指し、全国の選手が集う「スポレク滋賀2008」の開催など、生涯スポーツの一層の振興に努めます。

スポレク滋賀2008の開催

410,650千円

生涯スポーツの祭典である、第21回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク滋賀2008」を開催する。(経費の一部を負担)

- ・ 第21回全国スポーツ・レクリエーション祭（スポレク滋賀2008）

平成20年（2008年）10月18日（土）～21日（火）

主会場：滋賀県希望が丘文化公園

種目別大会会場：県内13市2町

参加見込数：選手、役員、一般来場者 約4万人

<開催種目>

都道府県代表参加種目 18種

グランドゴルフ、ゲートボール、壮年サッカー、
ソフトバレーボール、女子ソフトボール、ラージボール卓球、
ターゲットバードゴルフ、男女混合綱引、年齢別テニス、
年齢別ソフトテニス、バウンドテニス、年齢別バトミントン、
壮年ボウリング、マスターズ陸上競技、インディアカ、
フォークダンス、エアロビック、トランポリン

フリー参加種目 6種 ユニカール、フライングディスク 等

5 次世代へ活かす歴史文化資産の調査と活用

【予算額 16,510 千円】

本県の豊かな歴史文化資産の調査と活用を進め、県民が身近なものとして親しむことができるようにするとともに、その価値を県内外に広く発信します。

(新) 1 近江水の宝調査活用事業

6, 200千円

琵琶湖やその周辺の「水」に関わる豊かな文化遺産を調査し、その価値を評価するとともに、観光資源や教育の素材、地域づくりの資源として積極的に活用する。

- ・ 調査・評価委員会による総合評価と資源化検討
- ・ 様々な分野から「近江水の宝」を選定・登録
- ・ 学習への活用、県民への周知、県外発信
体験学習のしおり、学習教材の編集
ガイドブックの発行
観光モデルコースの設定 等

2 里山・遺跡のコ・ラ・ボ（木・愛）

7, 910千円

木々に埋もれた城郭や古墳などの文化財を、里山整備により活用できるようにする。

- ・ 不要木を伐採し、遺跡を観察しやすくするほか、案内板等の設置を行う。
※ 琵琶湖森林づくり県民税を充当

3 史跡観音寺城跡調査・整備事業

2, 400千円

特別史跡安土城跡に隣接し、我が国を代表する中世山城である「史跡観音寺城跡」の保存と活用に向けた取組みを進める。

- ・ (新)石垣基礎調査
大部分が未調査である史跡内の石垣の悉皆調査を実施